



新毎日

12月14日(水)

2022年(令和4年)

発行所:東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321

毎日新聞東京本社



力合わせ、未来の気候を作る

世界最大の民間の気象情報会社「ウェザーニューズ」と毎日新聞社による「#地球塾2050」が12月14日、千葉市美浜区の幕張テクノガーデンにあるウェザーニューズ本社で開かれました。芝浦工業大学柏中学高等学校の中高生計24人が参加し、気象情報と「みんなで作る天気予報」の重要性を学びました。

100年後の地球

あなたの手で

ウェザーニューズの皆さんのお話を聞いて、たくさんの方に気づかされました。特に気づかされたのは、アプリの心に残ったのは、アプリの利用者からの情報によるゲリラ豪雨の予測です。ゲリラ豪

雨は通常、予測が難しいものですが、ウェザーニューズはアプリの利用者の協力によって雲の写真をアップしてもらうことで、雨が急に降りそうなことを予測することに成功しています。人が力を合わせ、たくさんの人を助けるということに興味を持ち、将来



の道の参考にすることができました。専務執行役員の石橋知博さんが「明日の天気は変えられないが、気候は変えられる」と話していました。100年後の地球は、一人一人の力が合わさった結果なのではないでしょうか。

【井坂洸介】

考え方の変化

地球塾に参加する前は、ウェザーニューズについて「天気予報アプリのウェザーニュースを開発した会社」ということしか知りませんでした。しかし、社内を見学し、講義を聞いて、会社の理念や今まで行ってきたこと、これから行っていきたいことを知り、どのような会社なのか少し分かったような気がします。学校で行っている研究内容に近いものもたくさんあったので、自分たちの今後の研究に役立てていきたいと思います。

【伊藤成】

これからの地震対策

石橋さんが話した「防災と減災」について、僕は両方とも大事にしていくべきだと思います。これから起こるであろう南海トラフ地震を例に挙げると、地震が起きてから、約2分で津波が到達する県もあるそうです。人の命を守るためには、被害を最小限に抑える減災と同じくらい、津波を止めるような強い堤防を建てる(防災)といった理想を描くことも大事だと考えます。

【石戸俊太郎】



喫緊の課題

世界では、産業革命や経済成長、経済発展の影響で急速に地球温暖化が進んでいます。居住可能な地球を子孫に残すためにも、地球温暖化の原因になっている温室効果ガスの排出量を減らすことは必要不可欠です。これは現在、排出量が多い先進国だけが努力すれば良いという話ではなく、これから排出量が増加す



ると考えられる発展途上国の協力も大切です。また、中東の産油国などは、脱炭素の運動によって負の影響を受ける国もあります。こうした国に対して支援を行わなければ、新たな対立を生んでしまうことになるでしょう。

【寺島悠斗】

国民主体の災害対策

「国民主体での取り組みが大切」という言葉が印象に残っています。日常的に空の写真を送ってくる人がいれば、ゲリラ豪雨の可能性を予測できたりします。コンピュータ技術だけでは予測し切れない、実際の気候変動や災害の被害状況があります。それを予測するには、人間の力が必ずや必要だと思いました。また、国や企業の力だけでは万全でなく、国民が自ら情報を発信することで助力になると改めて気づくことができました。こうした情報ツールや行動が普及することに期待すると共に、私たちも自ら学び、考え、これからの未来が明るくなるように行動していきたいです。

【阿山珠吏】